

平成29年度高圧ガス容器全国一斉特別回収運動について

高圧ガス容器全国一斉特別回収運動が今年も10月に行われます。この運動は昭和62年に開始され、今回で第30回目となります。例年通りJIMGAの他、高圧ガス保安協会・中央容器管理委員会、全国高圧ガス溶材組合連合会、日本ソーダ工業会、日本フルオロカーボン協会、日本肥料アンモニア協会の協力の下で実施されます。

特別回収運動では、放置容器の他、停滞容器として納入後6ヵ月以上経過した使用済みの貸借容器や、所有者または内容物が不明で処分を依頼された容器を回収します。

平成28年度回収結果

昨年は長崎市や姫路市で容器破裂事故が続発したため、経済産業省の指導等もあり、例年以上に徹底した取り組みを会員の皆様にお願ひしました。

その結果、昨年度の特別回収運動では、表1の通り2,878本の放置容器および不明容器が回収され、そのうち、不明容器は901本と、前年のほぼ倍の回収本数となりました。ガス種別の回収本数は、表2のとおりであり、酸素およびアセチレンの容器が合わせて6割を占める傾向は例年と同様です。

更に、不明容器の半数近くは消費者の容器置き場から回収されています。

表1 回収容器数の推移

実施年度	放置・不明 (A)	不明のみ (B)	不明率 (B)/(A)
平成19年度	2,430	599	24.7%
平成20年度	3,779	907	24.0%
平成21年度	2,637	750	28.4%
平成22年度	1,806	513	28.4%
平成23年度	1,634	525	32.0%
平成24年度	1,778	522	29.4%
平成25年度	1,592	403	25.3%
平成26年度	1,394	387	27.8%
平成27年度	1,528	454	29.7%
平成28年度	2,878	901	31.3%

表2 平成28年度ガス種別回収結果

ガス種	放置・不明 (A)	不明のみ (B)	不明率 (B)/(A)	ガス種割合 (B)/合計
酸素	821	240	29.2%	26.6%
窒素	293	57	19.5%	6.3%
アセチレン	784	322	41.1%	35.7%
炭酸ガス	316	91	28.8%	10.1%
アンモニア	3	1	33.3%	0.1%
水素	18	8	44.4%	0.9%
ヘリウム	77	21	27.3%	2.3%
フルオロカーボン	77	36	46.8%	4.0%
塩素	1	1	100.0%	0.1%
アルゴン	169	20	11.8%	2.2%
特殊ガス	103	21	20.4%	2.3%
内容物不明	11	10	90.9%	1.1%
その他	205	73	35.6%	8.1%
合計	2,878	901	31.3%	100.0%



平成29年度ポスター

医療ガス容器点検キャンペーン

JIMGA医療ガス部門では7月から医療ガス容器点検キャンペーンを開始しています。このキャンペーンは、各都道府県の容器管理指針と共に医療ガス容器保安対策指針を活用し、容器の早期返却の促進および安全な取り扱いの啓発と医療ガス容器貸借契約の締結を推進するものです。

具体的には、履歴管理や「納入月ラベル」の活用による容器管理の徹底と、10月の特別回収運動と連携した容器点検キャンペーンの展開をお願いしています。

キャンペーンに使用する「啓発チラシ」と「納入月ラベル」には、各都道府県の容器管理指針の返却期限に応じて利用できるよう、それぞれ「1年以内」、「6ヶ月以内」、「3ヶ月以内」の3種類が用意されています。詳しくは会報「医療」8月号、または協会ウェブサイトをご覧ください。

<http://iryo-mem.jimga.or.jp/front/bin/ptdetail.phtml?Part=news20170629c&Category=6913>

放置容器の破裂事故

昨年の10月以降、幸いにも容器の破裂事故は発生していません。しかし、腐食が進むなど、危険な状態で放置されている容器はまだあります。7月には徳島県の学校プールにおいて、40年以上放置された塩素ガス容器が確認されました。底部がコンクリートで固定されていたため腐食しており、そのままでは回収することができず、近隣住民に注意喚起をした上で、内容物である塩素の中和処理が現場で行われました。同様な事例は依然として全国にあるものと思われます。

このような容器が破裂した場合は、非常に重大な事故となる可能性が大きく、未然に防ぐためにも、高圧ガス容器全国一斉特別回収運動への皆様のご協力をお願い申し上げます。



放置された塩素ガス容器



(左) 容器の底部

(下) 姫路市で破裂した容器
(平成28年8月)



(容器処理WG事務局 保坂 昭一)

医療ガス容器（ボンベ）の 安全な取り扱いにご協力ください

安全確保のために**ボンベを納入後1年以内にご返却**ください。
※1年以上放置されているボンベを発見した場合は、医療ガス販売業者に連絡をお願いします。
 ※各都道府県の容器管理指針に返却期限が定められている場合はそれに従ってください。

納入月ラベルの貼付開始のお知らせ

お客様にもボンベの納入後期間が簡単に把握できる
「納入月ラベル」をボンベに貼付します。

年1回の容器点検キャンペーンを推進

ボンベの**一斉点検**や、医療ガス安全管理委員会と協力して
ボンベの安全講習会等を実施します。

キャンペーン期間：平成29年7月～10月の4ヶ月間

納入年月
2017年6月

1年以内に
返却ください
JIMGA

医療ガスによる事故及びボンベの放置防止を目的に「**医療ガス容器保安対策指針**」を制定しました。使用者である医療機関と供給者である医療ガス販売業者が一体となり、ボンベの安全な取り扱いにご協力ください。
 ●「**貸借契約の締結**」または「**供給契約等への貸借条項の追加**」を推進しましょう。
 ●**ボンベは、医療ガス販売業者が所有し貸与しているものです。**一部、医療機関等が所有しているケースもあります。

発行： 一般社団法人 日本産業・医療ガス協会 医療ガス部門

お問い合わせ先

医療ガス容器啓発チラシ

会員紹介 — 高松帝酸株式会社 —

創業と沿革

高松帝酸株式会社は、昭和25年4月に香川県高松市において高松酸素株式会社として創業し、空気液化分離器にて酸素ガス、窒素ガスの製造を開始しました。昭和38年12月、高松酸素株式会社と帝國酸素株式会社（現 日本エア・リキード株）の出資で高松帝酸株式会社を設立しました。

昭和43年12月、新居浜工場ならびに営業所を開設し、酸素ガス、窒素ガス、炭酸ガスの充填を開始しました。昭和48年8月に香川県仲多度郡多度津町に多度津工場ならびに営業所を開設し、昭和50年6月に松山営業所を開設、昭和52年7月には本社工場および事務所を現在の高松市朝日町に移転しました。

その後、昭和55年10月、高知営業所開設、昭和58年10月に徳島営業所開設、平成5年9月にオルタス高知事業所を開設するなど、四国地域内に10拠点のネットワークを整えております。

高松市はうどん県で売り出している香川県の県庁所在地で、さぬきうどん、骨付き鳥、また屋島、栗林公園といった観光地が有名です。本社は、源平合戦古戦場の屋島と瀬戸内海を一望できる所にあります。

経営理念

“わが社は、高圧ガスの製造・販売と医療事業を軸に、四国一円のネットワークを活用し、新鮮で卓越したサービス、技術、情報の提供によって、お客様が求める「生産性」「使いやすさ」「付加価値創造」「QOLの向上」を実現する企業である。また、社員のチャレンジと創造性を常に追求し、働きがい、生き甲斐を実現し、社会に貢献する優良企業としての地位を目指す”を経営理念としております。



本社社屋



本社工場

移動式水素ステーションの開設

今年4月に、高圧ガス事業者の地域貢献の一環として、また社会的使命のひとつとして、本社敷地内に香川県下で初めての移動式水素ステーションを開設しました。このことにより、四国内での水素供給がより円滑に行えるようになりました。

来るべき水素社会の到来を見越し、お客さまが必要とするガスを供給し続けるために、燃料電池自動車への水素供給を進めてまいります。



移動式水素ステーション

JIMGAとの関わり

JIMGA四国地域本部産業ガス部門では、技術・保安部会の中で、消費者向けの保安を推進する高圧ガス保安講習会、保安セミナーなどの開催に向けて活動を行っております。

また、医療ガス部門におきましては地域本部長を務めさせていただき、医療ガス安全講習会を開催し安全確保に注力をするとともに、四国4県との防災協定に対しましては南海トラフでの大震災に対応すべく防災訓練等の活動を行っています。

当社では業種・用途に応じてガスをコントロールし、お客さまのご要望に添うよう品質向上、生産性向上、コスト削減、製品の付加価値向上をお手伝いするとともに、医療ガス関連のトータルサプライヤーとして、医療ガスに関するすべてのご要望にお応えし、高圧ガスを通じて地域社会の発展に尽くしたいと考えています。

(高松帝酸株式会社 代表取締役社長 太田 賀久)



本社から屋島を望む

第41回国際整合化委員会デンバー会議

2017年7月11日～13日の日程でコロラド州デンバー市内のマグノリアホテルにて、第41回IHCデンバー会議（アメリカCGA主催）が開催されました。

デンバーはアメリカの中西部ロッキー山脈の麓にあり、マイルハイシティという愛称で呼ばれるとおり1,600m（1マイル）の標高に位置しています。空気が少し薄いことから、高地でのトレーニング地として日本のマラソンの選手が合宿をしていたことでも知られるボールダーが、このデンバーから北西約30マイルの所にあります。

会議の参加者はCGA（アメリカ）より4名で、そのうちIHCワーキンググループ長が Air Liquide の Richard Pawulski 氏から Matheson-Tri Gas の Kelvin Dixon 氏（集合写真左1番目）に代わり、今回より参加しました。EIGA（ヨーロッパ）3名、AIGA（アジア）3名、JIMGA（日本）3名、IOMA（国際酸素製造者協会）のオブザーバー（Air Liquide, Linde）2名、総勢15名が参加しました。

Rich Craig（CGA技術ダイレクター）議長の進行のもと、会議が進められました。自己紹介に続き、独禁法遵守と前回の第40回IHCバンコク会議の議事録の確認を行った後、各協会の活動報告として、JIMGAからは、「工業ガス業界におけるFIT制度変更に伴う電力料金の増額とその賦課金減免制度の継続」、「IHC活動紹介のJIMGAウェブサイトへの掲載」について紹介しました。産業ガス部門については、産業保安のスマート化活動として、昨年12月より受付が開始された「ファスト・トラック制度」、本年4月に制定された「新認定制度」、ならびに「RFタグ」が2017年3月末時点で延768,000本装着されたことを紹介しました。また、規制改革案件として、「容器再検査のUT（超音波探傷検査）の適用」や「CEへの単独荷卸」に関する活動状況の説明をしました。医療ガス部門については、上半期の事故とリコールの状況を紹介しました。

次に、国際整合化活動の進捗確認へ移り、特殊ガスのギャップ分析（プロセスと危険源の解析



第41回IHCデンバー会議参加者
メンバー集合写真



会議の様子

から国際整合化文書として必要な文書を特定する活動) について、主担当協会のJIMGAより、前回会議からの進捗の説明と4協会合意されたギャップ分析結果について説明しました。一部の懸案事項を除いて、このギャップ分析が終了したことが確認されました。CGAが「自然発火性ガス（シラン）が漏えいした時の緊急対応」について、原案となる技術基準を作成し、

国際整合化文書として基準化することが合意されました。また、現在活動中の新規12件、改訂21件のリード協会の進捗と各協会の発行時期が確認されました。JIMGA主担当の「ホスフィンの取扱い指針」と「アルシンの取扱い指針」の改訂については、4協会によるWeb会議の結果として、技術的な議論は終了し、間もなく国際整合化文書として発行されることが報告されました。

各セッションの議論では、水素（JIMGA水素スタンドプロジェクト）、医療ガス（「納入ラベルの作成」、「年1回の容器点検キャンペーン」、「緊急・災害対応体制の整備に関する手引書」、「封キャップの開発」）、保安（「日本の労働災害事故件数の推移」、「容器回収キャンペーン報告」、「重大事故報告2件；製鉄所内窒素ガス貯蔵タンク酸欠事故およびLCG容器の破裂事故」）についてJIMGAより報告し、議論がされました。

次回第42回IHC会議は、日本開催でJIMGA主催（幹事協会）となります。2018年3月13日～15日、神戸での開催を予定しています。



ロッキーマウンテンナショナルパーク付近のエステス・パーク

(国際部会事務局 羽坂 智)

新事務局員の紹介



名 前：田邊 浩義 (たなべ ひろよし)

現住所：埼玉県吉川市

出身地：神奈川県横須賀市

生年月：1960年10月

略 歴：1984年 4月 日本酸素(株) 入社

1984年 6月 日本酸素(株) 東北支社勤務

2006年 10月 大陽日酸(株) 北陸支店勤務

2017年 7月 JIMGA 常務執行役員

趣 味： 見知らぬ土地を歩くこと。メタボ防止の実益を兼ねて通勤も一駅前で下車して事務所まで歩いています。

抱 負： 座右の銘は「一期一会」です。少しでも早く皆様と縁を結んでお役に立てるよう努力いたします。